

指定管理者が行う公の施設の管理状況全期間評価

施設所管部名：農水商工部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県営サンアリーナ
指定管理者の名称等	株式会社スコルチャ三重 代表取締役 濱田典保（伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4）
指定の期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 サンアリーナの事業の実施に関する業務 2 サンアリーナの施設等の利用の許可に関する業務 3 サンアリーナの利用料金の收受等に関する業務 4 サンアリーナの施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5 前各号に掲げる業務のほか、三重県がサンアリーナの管理上必要と認める業務

2 管理業務の実施状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
H18	A		○スポーツや文化の多彩な自主イベントを開催し、スポーツ振興事業や女性向け文化講座など、積極的に新しいことに取り組み、地域の体力づくりやコミュニティの活性化に貢献するとともに、地域の各種団体や企業とのコラボレーションに努め、新たな分野での利用拡大につなげた。 ○施設の維持管理においては、職員による館内巡回を徹底するなど、不具合の早期発見と迅速な対応に努め、利用者への配慮を優先した適切な管理運営を行った。 ○平成21年度から受電先を特定規模電気事業者に切り替え、経費の節減を実現したことに加え、照明のLED化にも着手するなど、さらなる経費縮減が期待されるものであり高く評価できる。
H19	B		
H20	A		
H21	A		
H22	A		

3 施設の利用状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
H18	A		○交通の不便さを解消するため、大型興行コンサート時の直行バス「コンサートエクスプレス」運行や、サンアリーナインター開放の手続き代行など、利用者の利便性の向上と、利用促進に努めた。 ○自主事業の拡充に努め、県民にとっての身近な施設を目指して多彩なイベントを開催し、5年間の累計で、約22万8千人を集客した。 ○大型イベント等の誘致に向けたプロモーション会社訪問や県内各種団体や企業等への働きかけなど、直接的な誘致活動に積極的に取り組むことにより、一定の大型コンサートの利用が定着するとともに、地域の企業による利用が増えるなど、異業種の利用拡大につながった。
H19	C		
H20	C		
H21	B		
H22	B		

4 管理業務に関する経費の収支状況(全期間)

(単位：円)

収入の部		支出の部	
指定管理料	990,000,000	人件費	399,452,079
利用料金収入	434,581,685	水光熱費	294,423,573
自主事業収入	107,152,368	その他一般管理費	647,823,391
営業外収入	30,876,852	自主事業経費	153,802,402
その他の収入	0	その他の支出	0
		法人税・住民税及び事業税	27,396,022
合計 (a)	1,562,610,905	合計 (b)	1,522,897,467
収支差額 (a)-(b)	39,713,438		

※参考

利用料金減免額	33,553,071
---------	------------

5 成果目標及びその実績

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間における成果目標及びその実績						
			成果目標項目	目標値	H18実績値	H19実績値	H20実績値	H21実績値	H22実績値
H18	B		平均稼働率(メインアリーナ)	65.0%	52.6%	55.0%	56.6%	61.4%	60.5%
H19	B		平均稼働率(サブアリーナ)	75.0%	65.0%	65.1%	66.9%	68.8%	63.4%
H20	B		平均稼働率(会議室等)	45.0%	17.3%	10.9%	15.0%	23.0%	17.5%
			利用人数(アリーナ)	334,000人	300,869人	182,792人	237,119人	289,704人	208,938人
H21	B		利用人数(会議室等)	38,000人	44,544人	65,701人	23,650人	51,182人	28,101人
			利用人数(トレーニング室)	23,850人	22,488人	21,824人	20,720人	17,789人	19,066人
H22	B		利用人数(フィットネス)	4,150人	4,131人	4,769人	3,828人	3,121人	3,368人
			利用人数(合計)	400,000人	372,032人	275,086人	285,317人	361,796人	259,473人
全期間におけるコメント									
<p>○成果目標は達成されていないものの、指定管理者制度導入以前の4年間と導入後の5年間の平均を比較すると、メインアリーナの平均稼働率は9.1ポイント上昇しており、全館の利用者数は13.4%増加している。これは、平成18年4月1日から原則休館日なしの全日開館を開始するとともに、利用料金体系の改善(1時間単位の利用料金制やコート単位の分割利用、減免措置など)など、常に利用しやすい環境づくりを行ったことによるものと考えられる。</p>									

6 総括評価

○原則休館日なしの全日開館を実現し、利用料金体系の改善とともに、常に利用しやすい環境づくりを行った。

○地域の各種団体や企業とのコラボレーションにより、多彩な自主イベントを開催し、県民にとって身近な利用しやすい施設を目指して新たな利用者層の開拓をはかり、利用者拡大だけでなく、地域コミュニティの活性化にも貢献している。

○特定規模電気事業者への移行や照明のLED化、委託業務の見直しなど、常にコスト削減に取り組んでおり、経費節減を実現している。

○交通の不便さを解消するため、大型コンサート利用者のための直行バス「コンサートエクスプレス」の運行や、サンアリーナインター開放の手続き代行など、利用者や主催者の利便性の向上をはかり、使いやすい施設をアピールし、利用促進に努めた。

○成果目標は達成されていないものの、指定管理者制度導入以前の4年間(平成14年度から平成17年度)と導入後の5年間(平成18年度から平成22年度)の平均を比較すると、メインアリーナの平均稼働率は9.1ポイント上昇しており、全館の利用者数は13.4%増加している。また、指定管理料は、約33.3%減少しており、利用の拡大と経費の縮減がはかられている。

○今後は、成果目標達成に向けて、大型イベントの誘致や自主事業の開催など一層の創意工夫ある取り組みが求められる。また、老朽化による施設・整備については、施設利用に支障をきたすことのないよう、計画的に整備を進めていく必要がある。さらには、サンアリーナ前駐車場のフットボール場整備工事が始まるなど、周辺環境変化に対応した適切な管理運営が必要となってきている。

- ※ 「2 管理業務の実施状況」の自己評価
: 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。
- ※ 「3 施設の利用状況」
「5 成果目標及びその実績」の自己評価
: 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。
- ※ 県の評価
: 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。